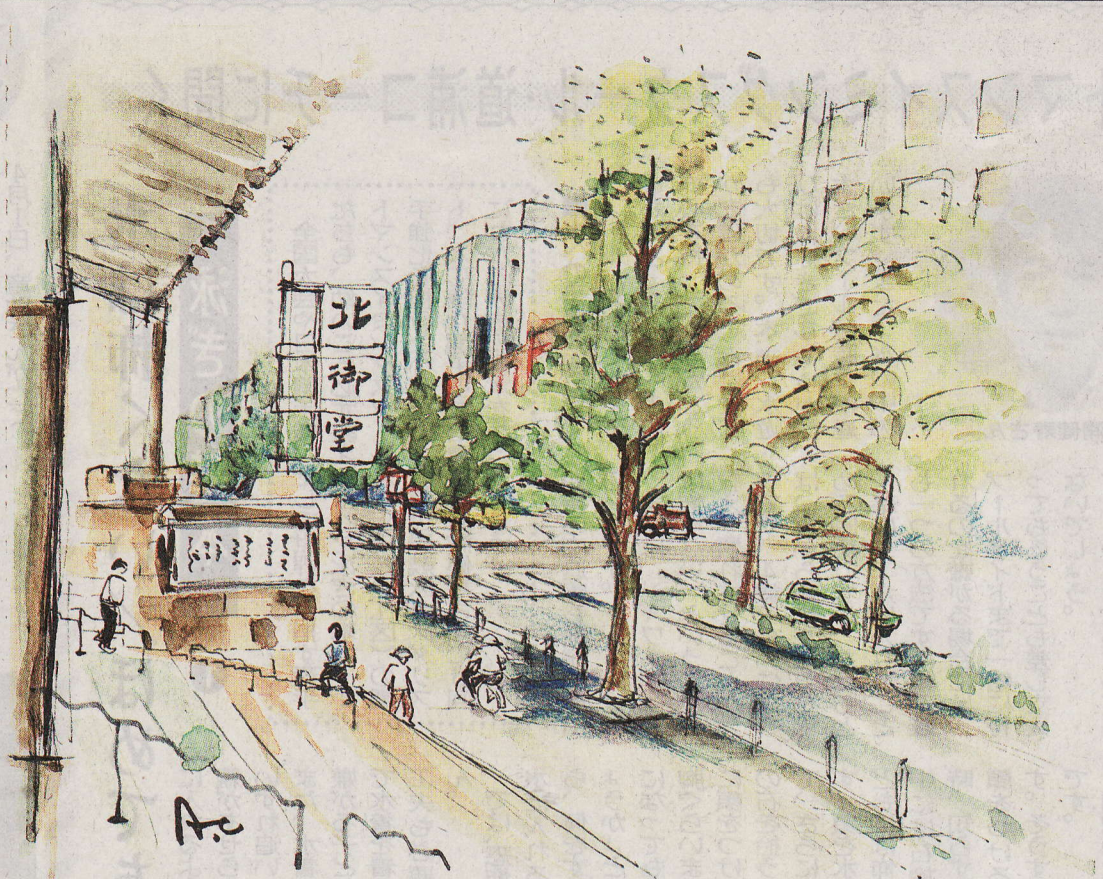


16

二つの御堂さん



北御堂の取材を終えて階段を下り始めた時、御堂さんが北と南の二つあるのはなぜか、同じ浄土真宗なのに違いはあるのかという疑問

問がわいてきた。関西では常識かもしれないが、関東生まれの私には一つの疑問であり、早速情報を収集。同じ疑問を持たれている方

のため、ご披露したい。分かりやすくするために、史実を時系列に並べてみた。  
①親鸞聖人(1173~1262年)の死後、浄土

# 御堂筋のからり

真宗の東山の大谷本願寺は衰退の一途であったが、蓮如上人(1415~1499年)が任職となり爆発的な参詣者を得た。その後、比叡山の衆徒により焼失。そして流転先の越前・吉崎、山科本願寺、大阪・石

転させられた。

③豊臣秀吉の時代の1591年、頭如上人は京都・六条堀川の現在地に本願寺の寺基を移転させた。一方、大阪の門徒たちが「お念仏」の灯を守るため、天満に近

転(移徒・おわたまし)の法会(法要)が営まれた。以降、津村御坊は「北御堂」(浄土真宗本願寺派・西本願寺の津村別院)と称されるようになった。さらに翌年、秀吉の大阪の町整備政策で、大谷本願寺を渡辺の地から上難波の現在地に移転させ、「南御堂」(真宗大谷派・東本願寺の本拠地から難波別院へ)と称せられるようになった。1598年の時点では東本願寺、西本願寺の分類はなかった

## 大阪商人らにとり心の支え

山本願寺でも、隆盛と迫害の連続であった。

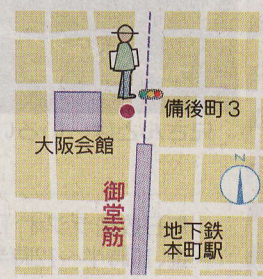
これが津村別院(北御堂)の始まりである。

が、慶長7(1602)年、徳川家康が教如上人に京都・六条烏丸の地を寄進した

②頭如上人(1543~1592年)のとき、石山本願寺は織田信長より「石山合戦」を仕掛けられ、和議のあと石山本願寺を紀伊鷺森、和泉貝塚、天満に移

④頭如上人没後3年の文禄4(1595)年、豊臣秀吉は頭如三男の准如上人に本願寺宗主を命じた。同じ年に、頭如長男の教如上人は大阪・西成郡渡辺の地に「大谷本願寺」を建立した。これが難波別院(南御堂)の始まりである。

江戸時代以降、大火、戦火で焼失した両御堂さんは見事に再建され、御堂さんを心の支えにして船場の商人をはじめ大阪の人々は活



⑤慶長2(1597)年、「樓の岸」の坊舎は津村郷の現在地に移り、翌年、津村御坊は准如上人による移

を心を得て今日に至っているのである。